

番号	9		事業名	県営農道整備		市町村名	箕輪町、南箕輪村		路河川名	町道1号、村道3020号、村道3134号、村道2230号		箇所名(ふりがな)	伊那西部(いなせいぶ)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>広域営農団地農道整備事業伊那西部地区は、昭和46年から平成2年にかけて建設した全幅8mの幹線農道である。全線供用開始から30年経過し、周辺の環境変化にともない、日交通量9,000台の主要な地方道となっている。本路線の近辺には小中学校があり通学路として利用しているが、歩道がないため毎日の登下校時には狭小な路肩を歩行しており安全が確保されず危険な状況であった。</p> <p>また、交通量の増加に伴い大型車両の通行が増加したため路面が損傷し、車両の走行性の低下や農産物輸送に伴う荷痛み被害が生じる懸念があった。さらには、建設当時設置された橋梁は、老朽化が進み施設にひび割れ等が発生しているため、補修工事を行う必要があった。これらの課題を解決するため、路面改良工、歩道設置工、橋梁補強工を実施し施設の機能回復を図った。</p>													事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
	<p>・路面改良の工法を路上路盤再生工法とアスファルト、路盤材を再利用したことで、廃材が少なくなり自然環境への負荷が低減された。</p> <p>・通学路に歩道が設置され歩行時の安全性が大幅に向上した。</p>													A		
事業目的	<p>本事業により、路面改良工、歩道設置工、橋梁補強工を実施し、広域農道を通行する車両の走行性や作物輸送等農道としての機能の回復を図るとともに、歩道を設置することで歩行者の安全性を確保することを目的とする。</p>													施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
事業概要	当初工期	H23~H27	費用対効果(当初時)	4.85	事業費(千円)	財源内訳(千円)				③施設の維持管理状況	<p>・施設の維持管理は管理者である箕輪町、南箕輪村が行っており、見回りや修繕工事等で施設の維持に努めている。</p>	B				
	最終工期	H23~H28	費用対効果(評価時)	4.85	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源							
	当初計画内容(主な工種)	路面改良 L=5,620m W=6.5(8.0)、交差点改良 N=2箇所 歩道設置 L= 850m W=2.3m 橋梁補強 N=2箇所			800,000	400,000	200,000		200,000	④地域住民等の評価	<p>地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)</p> <p>・歩道ができて歩きやすくなった。</p> <p>・危険を感じながら歩いていたのが歩道ができて安全に歩けるようになった。</p> <p>・歩道の設置位置の調整が難しかったが完成して歩行環境が改善した。</p> <p>・道路工事の間は渋滞して不便だったが、完成後は路面の凹凸がなくなり走りやすくなった。</p> <p>・舗装の凹凸がなくなり農作物の傷みを気にせず運搬できるようになった。</p> <p>・交差点が広くなり、左右折の車両と信号待ちの車両や横断歩行者との間に余裕ができ、危険が減少した。</p> <p>・交差点が広くなり、車両がスムーズに曲がるできるようになった。</p>	A				
	最終事業実績(主な工種)	路面改良 L=5,989m W=6.5(8.0)、交差点改良 N=2箇所 歩道設置 L= 791m W=2.3m 橋梁補強 N=3箇所			762,924	381,462	190,731		190,731							
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>路面改良工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度から本線に隣接する伊那技術専門校と用地取得や設計内容について打合せを実施。</li> <li>平成25年度に伊那技術専門校が県南信工科短期大学校となることが決定。</li> <li>平成25年度時点では、技術専門校の既存施設を活用し新たな施設の建設はしない計画であったが、その後、施設計画の変更があり、既存施設を解体し校舎の新設工事を実施することとなる。</li> <li>施設計画の見直しに伴い、南箕輪村道側にある正門を広域農道側に接続することとなった。</li> </ul> <p>上記工事は、広域農道からの工事車両出入りが必要となり、路面改良工事の実施時期についての調整を要したため、工期を平成28年度まで1年間延長した。</p> <p>この延長については、公共事業相互の工事を円滑に行うための調整期間であり、やむを得ない措置であった。</p>													改善措置の必要性	・現時点で改善の必要性は認められない。	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>入札差金による減額。</p>															
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)										評価	B	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>・交通量の多い路線で交通規制を伴う工事であったため、交通渋滞に対する利用者の対応に苦慮した。予告看板による迂回路の周知等を徹底するなど、早めに工事情報の提供を行いドライバーに工事中の渋滞について認識してもらうこと、工事現場の迂回を選択してもらうことで、如何に工事現場を走行する車両を抑制できるかが課題。</p> <p>・歩道設置位置の選定は利用者それぞれに考え方があり、立場や状況により要望区間が異なるため選定が難しい。周辺状況や利用者の意見をもとに、より公共性の高い位置に最終的には決定されるが、決定にあたっては十分時間をかけて利用者の意見を漏れなく聞き取る必要がある。</p>		
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>路面改良工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路面の改良を行ったことにより、走行性が向上。</li> <li>・路面の凹凸がなくなり平坦性が向上したことで降雨時の表面水の溜まりが解消し降雨時の安全性が向上。</li> <li>・中央線、区画線を引き直したことにより、夜間の車線視認性が向上。</li> <li>・交差点改良を併せ行ったことで、大型車の旋回がスムーズとなり、本線走行の車両の通行性も向上。また、信号待ちの歩行者の巻き込み事故の懸念も解消。</li> </ul> <p>歩道設置工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道を設置し車両と歩行者が分離されたことで通行の安全性が向上。</li> </ul> <p>橋梁補修工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひび割れ等の損傷箇所を補修したことで橋梁の機能が回復し健全性が向上。</li> </ul>														
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該路線は地震時の緊急輸送道路に指定されており、事業により現施設の機能回復が図られたことで緊急時の物資輸送のリスクを低減。</li> <li>・事業地域は観光農園や貨物輸送基地への経路路線でもあるため、走行性や安全性が向上したことにより、観光産業や物流の利便性にも寄与。</li> </ul>										農政部公共事業評価委員会の意見	対策工事後、農道の機能回復及び安全確保が効果として発現しており、地域住民の評価も高いなど、総合評価Aが妥当と判断する。	総合評価	A	
													長野県公共事業評価委員会の意見	農政部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。	評価監視委員会意見	妥当
															評価の決定	A



番号	9	事業名	県営農道整備	市町村名	箕輪町、南箕輪村	路河川名	町道1号、村道3020号、村道3134号、村道2230号	箇所名(ふりがな)	伊那西部(いなせいふ)
----	---	-----	--------	------	----------	------	------------------------------	-----------	-------------

